

平成 27 年 1 月 29 日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院看護福祉学研究科長 平 典子殿

主査 野川 道子 印

副査 三国 久美 印

副査 花岡眞佐子 印

副査 牧本 清子 印

学位論文題目

看護実践における行為の振り返り尺度の開発－患者の治療決定の支援に焦点をあてて－

学位論文審査結果の要旨

1. 概要

本論文は、看護師による患者及び家族に対する治療決定の支援に焦点をあて、看護実践の行為の振り返り尺度を開発し、看護師の判断力と自己評価の育成に向けた実用可能性を検討したものである。

審査委員は主査 1 名、副査 3 名（内 1 名は他大学教授）の計 4 名で構成され、学位論文審査は口頭発表、質疑応答、博士論文基準による評価、審議の順で実施した。質疑応答では審査委員の質問に的確に回答しており、博士論文審査基準による評価は審査員全員が基準を満たしているという結果であり、本論文は、看護実践や研究への貢献が期待される独創的かつ、完成度の高い論文であると評価された。審査委員の主な意見は次の通りである。

- 1) 看護師のインタビュー調査結果から構成概念を解明し、その後尺度作成と信頼性・妥当性を検討し、さらに実用可能性を検討しており、尺度開発のプロセスに沿って完成した実用性のある尺度である。
- 2) 現代は入院期間の短縮、患者の多様なニーズの対応、勤務形態の変化など、これまで以上に看護師の判断力の向上、看護実践の振り返りの必要性が高まっており、看護実践での活用が期待できる。
- 3) なお、二つの意見がだされた。一つ目は第 1 段階の治療決定のための看護支援に焦点をあてた振り返りの構成概念の抽出過程に関する質的帰納的研究としての詳細な記述が必要である。二つ目は開発した「患者の治療決定のための看護支援に焦点をあてた振り返り」尺度をさらに精錬すること。

2. 最終試験

最終試験では学位論文に関する口頭発表及び質疑応答を行うとともに、申請者のこれまでの研究業績を精査した。その結果、申請者は研究を遂行する能力があるとの判断に至った。

以上の結果、尾形 裕子は博士（看護学）の学位を授与する資格があるものと判定する。